



きたやまた
北山田小だより

横浜市立北山田小学校 = 592-0061

オオアリクイに出会った日

副校長 佐々木 誠

木々の緑はしだいに濃くなり、さわやかな初夏の季節となりました。学校はもうじきプール開きを迎え、プール周辺には元気な歓声がひびきわたります。

この一ヶ月を振り返ってみますと、5月は体験学習の多い月でした。愛川体験学習（愛川ふれあいの村4、5年）に始まって、生活科見学（大塚歳勝土遺跡公園1年）・都筑北部工場見学（4年）・生活科見学（ズーラシア2年）・修学旅行（日光6年）と、毎回好天に恵まれて予定どおりに実施されました。こういうことは、めったにない素晴らしいことです。私は愛川体験学習（4・5年）と生活科見学（ズーラシア2年）に参加しました。

さて、2年生の生活科見学（ズーラシア）でのことです。

昼食後、私の持ち場に向かう途中で「オオアリクイ」のコーナーに目をやると、係員が小さな粒状のエサを撒いていました。何かいい事が起きる予感がして近くに寄っていくと、すでに北山田小の2年生のある班がガラス前に陣取っていました。

「オオアリクイ見えないよ。どこにいるのかな。」

「今、係りの人がエサを撒いたから、すぐに出てくるよきっと。」

係員が去っていくと、左手の檻の方から「オオアリクイ」が悠然と現れ、下を向いて何かを探す動作をしながら、こちらの方に近づいてきました。

「あっ、きたきた。」

「でかいなー。」

オオアリクイはやがて先ほど係員が撒いたエサの方に近づいてきました。と、その時。細く長い口の中から、枝分かれした黒くて細い舌が出てきたかと思うと、撒かれたエサを絡め取るようにして二度三度と口の中に運び、あっという間に食べ終わりました。

「おっ、すごい。食べている。」

「舌、長いね。」

「もう、終わっちゃったの。」

食べ終わると、オオアリクイはゆっくりと右手の方へ歩いていって視界から消えてしまいました。

やがて再び右手から姿を現したときは、ガラス前にいる四人の子どもたちに最接近して、目の前で最もでかい姿を見せてくれたのでした。子どもたちは感動して「おお。すげー。」などと言いながら、大喜び。オオアリクイは、みんなの目の前でちょっと立ち止まるようにして、やがてもと来た方向にゆっくり歩いていきました。何かを探す動作をしながら。

「オオアリクイ見られてよかったね。」

「うん。よかったー。」

と、子どもたちは口々にささやきながら歩き始めましたが、きっと言葉に表せない何かを体いっばいに感じたに違いないと私は思いました。

おうちの人も友だちにも先生にもオオアリクイのことを伝えたことでしょうか。会話となって、作文となって・・・。体験は子どもの感性を豊かにし、確かな知性を育てていきます。この5月、様々な体験をした子どもたち。またひとつ、大きく成長してほしいと思います。